

保健、医療、福祉と連携した聴覚障害のある乳幼児に対する教育相談充実事業  
成果報告書

受託団体名

岐阜県教育委員会

1. 事業の実績

(1) 事業の目的・目標

事業の目的

本事業の対象となる飛騨地域は、岐阜県内の聴覚障害の専門的な医療・療育・教育機関のある岐阜市から遠距離にあり、乳幼児が専門的な診療や療育、教育を受けたり、保護者が身近に相談したりできる機会が限られている。また、聴覚障害支援に関する専門的な情報を得ることも難しいため、保護者は子育てに不安を抱えている。こうした不安を軽減し、安心して教育につなぐための支援が必要である。

そこで、飛騨地域において「乳幼児教室」を開催し、地域の早期支援の拠点とするとともに、乳幼児教育相談マネージャーによる地域の関係機関との連絡・調整によって、飛騨地域において乳幼児期からの切れ目のない聴覚障害支援体制を構築する。

事業の目標

- ・飛騨特別支援学校に乳幼児教育相談マネージャーを配置することで、飛騨地域における乳幼児教室及び岐阜県難聴児支援センターが行う飛騨地域への相談事業につなぎ、飛騨地域において専門機関の支援を早期から受けることができるようにする。
- ・乳幼児教育相談マネージャーと岐阜聾学校から派遣された教員が協同し、きこえとことばの専門的な指導及び日常生活での乳幼児への関わり等の相談に対する助言を行うことで、保護者の不安を軽減できるようにする。令和3年度は、月1回程度の乳幼児教室を開催する。
- ・乳幼児教室において作成した個別の教育支援計画を就学時に引き継ぐことで、必要な支援を継続して行うとともに、就学後の支援についても乳幼児教育相談マネージャーが小学校、中学校、義務教育学校、高等学校に継続して助言することで、飛騨地域の学校で学ぶ聴覚障害のある児童生徒への支援を充実させる。
- ・飛騨地域特別支援教育連携協議会聴覚部会を設置し、乳幼児からの支援の状況を保健、医療、福祉、教育の関係機関で交流し、情報共有やニーズの把握、意見聴取等を行い、飛騨地域において乳幼児期からの切れ目のない聴覚障害支援体制を構築する。

(2) 研究協力機関・校の一覧

(ふりがな) 学校名	障害種	具体的な役割
ぎふけんりつひだとくべつしえんがっこう 岐阜県立飛騨特別支援学校	知的障害 肢体不自由 病弱	飛騨地域において聴覚障害支援機能を有する特別支援学校地域支援センター
ぎふけんりつぎふろうがっこう 岐阜県立岐阜聾学校	聴覚障害	全県の聴覚障害支援を担う特別支援学校コア・スクール

### (3) 取組内容

#### ①乳幼児教室（月1回）

- ・乳幼児教育相談マネージャーを中心に、聴覚障害支援非常勤講師（乳幼児教室等の補助業務を担当）、岐阜聾学校で指導経験のある教員1名、地域支援センター担当教員1名による校内チームを編成し、乳幼児教室を実施した。当初、岐阜聾学校から教員を派遣し協同する予定だったが、感染症対策のため、校内チームのみで実施した。

#### ②保護者向け個別相談（随時）

- ・0～5歳児4名乳幼児の保護者に対して、乳幼児教育相談マネージャーによる個別相談を随時実施した。状況に応じて、保健師の家庭訪問に同行した。
- ・補聴器装用後の生活や療育に関する相談、就学先や就学後の支援に関する相談等を受けた。
- ・保護者向けの相談会として、7月に先輩保護者2名を囲んで語る会を実施した。

#### ③地域の園校への訪問支援（随時）

- ・乳幼児教室参加者の在籍園に対して、訪問支援を実施した。

#### ④関係機関との連携

##### <飛騨地域特別支援教育連携協議会聴覚部会>

- ・飛騨地域特別支援教育連携協議会に、4市村の保健、福祉、教育の各担当者、県難聴児支援センター言語聴覚士、保護者の代表で構成される聴覚部会を立上げ、11月にオンライン開催、2月に書面開催した。
- ・聴覚部会の出席者である高山市子育て支援課・健康推進課の依頼により、保健師対象の学習会を実施した。

##### <県難聴児支援センター連携会議>

- ・令和3年11月に新設された県難聴児支援センターの連携会議に、飛騨特別支援学校乳幼児教育相談マネージャーを含む聴覚障害支援機能を持つ特別支援学校の関係者が出席し、県内の聴覚障害に関わる関係機関と地域の状況について情報共有し、連携方法について協議した。（11月はハイブリッド型開催、12月は集合型開催、1月中止（新型コロナウイルス感染症対策のため）、3月オンライン開催）
- ・連携会議の出席者である岐阜市児童発達支援センター診療所を受診、補聴器装用を開始した飛騨地域在住の難聴児とその保護者について児童発達支援センターと連携し、通所が難しい時期に、必要に応じて家庭訪問や個別相談を実施した。

#### ⑤担当者の専門性向上のための研修

- ・乳幼児教育相談マネージャーを含む乳幼児教室担当者の専門性向上のため、医師や言語聴覚士、当事者等を講師に迎え、オンライン型で研修（5回）を実施した。
- ・乳幼児教室の指導について、大学教員による参観と助言（3回）を受けた。

#### (4) 事業の成果

##### ①乳幼児教室

・乳幼児教室（月1回）における参加者数と実施方法を以下に示す。

	7月～	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者	4親子	1親子	2親子	1親子	2親子	2親子	2親子	3親子
方法	個別相談	オンライン	集合	集合	ハイブリッド	オンライン	オンライン	オンライン

- ・乳幼児教室の実施によって、保護者が聞こえや言葉の発達について相談しやすくなり、不安を軽減させることができた。感染症対策のため全てを集合型で実施することはできなかったが、オンライン型で毎月実施することで、つながりを途絶えさせないようにできた。
- ・乳幼児教室担当者の専門性向上のため、医師や言語聴覚士、当事者等を講師に迎え、聴覚活用や言語獲得（言語発達）、障害認識等の研修を実施し、最新の情報や動向を得ることができた。

##### ②保護者向け個別相談

- ・感染症対策のために遠方にある専門機関への通所・通園が難しい状況にある乳幼児とその保護者に対して、家庭訪問や個別相談を実施し、不安や質問に答えることで、保護者が前向きに早期補聴や専門療育に向かえるようサポートすることができた。

##### ③地域の園校への訪問支援

- ・乳幼児教室参加者の在籍園3園を含む5園、12校に対して、訪問支援を実施できた。
- ・保育等の参観後、園等の担当者と保護者、関係市の教育委員会担当者、福祉課担当者等と懇談し、園での支援や就学先や就学後の支援の引継について助言することができた。

##### ④関係機関との連携

- ・早期からの教育支援の在り方について、聴覚障害支援体制に焦点を当て、現在行っていることと課題、今後できそうなことについて交流、確認することができた。
- ・飛騨地域における聴覚障害支援体制を周知するための資料を作成した。令和4年度に、飛騨地域の関係機関に周知する予定である。

##### ⑤担当者の専門性向上のための研修

- ・乳幼児教室担当者の専門性向上のため、医師や言語聴覚士、当事者等を講師に迎え、聴覚活用や言語獲得（言語発達）、障害認識等の研修を実施し、最新の情報や動向を得ることができた。

#### (5) 課題と今後の方策

- ・飛騨地域は広いため、同じ地域であっても自分以外に聞こえにくい子、聞こえにくい子を育てる保護者と出会うことは少ない。乳幼児教室を通して、飛騨地域の聞こえにくい子、聞こえにくい子を育てる保護者同士のつながり作りをしていく。計画に従い、令和4年度は月2回、令和5年度は週1回実施する予定である。
- ・令和3年度は飛騨特別支援学校の乳幼児教室担当者を対象に実施したが、令和4年度はハイブリッド型で実施し、県内の聴覚障害支援機能を持つ特別支援学校の乳幼児教室担当者がオンラインで参加できるようにし、全県での専門性向上に努める。
- ・保護者は在籍園校に対し、我が子の聞こえにくさに対する支援や専門機関で得た情報等を伝

えることを躊躇したり、正しく伝えられるかと不安に感じたりしていた。令和4年度は、就学予定の小学校等に対して、理解啓発のための研修や就学後の支援について助言できるようにする。

- 令和4年度は、飛騨地域の各関係機関に聴覚障害支援体制の周知を図る。また、各市村での支援事例を交流し、随時体制を見直し、モデルとなる事例を全県で共有する。